

こころ育てる絵本との出会い

マカちゃん通信

2011 4 - 5 vol.

7

絵本原画展

西村繁男

特集

だっこの絵本



にしむら しげお
西村 繁 男



細やかに描かれるページの中に
あふれる遊び心
現実も空想もいきいきと息吹く
西村ワールドへ出発!!

西村繁男(にしむら しげお)プロフィール

1947年高知市生まれ。中央大学商学部卒業。セツ・モードセミナー卒業。

『おふろやさん』『やこうれっしゃ』(福音館書店)『にちよういち』(童心社)など、人々の生活を丹念に取材観察して描く。そして『絵で見る日本の歴史』『ぼくらの地図旅行』(福音館書店)など俯瞰で見た構図の中に暮らす大勢の人々を描くようになる。

その後は取材することより、イメージで描くものが多くなる。それらの作品は『みんなであそぼう』『チータカ・スーイ』(福音館書店)『ピチクルピチクル』(童心社)『おでんざむらい』(くもん出版)『じごくのラーメンや』(教育画劇)『ぶらぶらばあさん』(小学館)『だがしかし』(文溪堂)などがある。

絵本原画展開催

平成23年4月1日(金)～5月29日(日)



『むしむしでんしゃ』(童心社)

原画
展示
絵本

本展では人気の電車シリーズから『むしむしでんしゃ』、『おばけでんしゃ』の絵本原画をご紹介します。

西村繁男先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

大学に入り自分の将来を考えた時、小学生の頃絵を描くのが好きだったのを思い出して、イラストレーターになろうと決意して、また絵を描き始めました。その後、田島征三さんと知り合い、絵本の世界の面白さに魅かれるようになったのです。

画材は何を使っていますか？

「おふろやさん」「おばけでんしゃ」など、和紙に日本画絵具で描くことが多いですね。「絵で読む日本の歴史」のように水彩画紙に透明水彩絵具で描くこともあります。「ピチクルピチクル」は油絵具で刷った木版画です。

今回絵本原画展を行う『電車シリーズ』の制作秘話や思い出を教えてください。

「がたごと がたごと」が内田麟太郎さんの最初の絵本になります。内田さんの原稿にはト書きが書かれていて、それによって自分の中のイメージがどんどん広がっていくので、楽しんで絵本作りができるんです。「おばけでんしゃ」「むしむしでんしゃ」は、二冊とも続編をという話がまだないうちに内田さんの原稿が届きました。

こうして電車シリーズ三部作ができました。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本を教えてください。

「絵で読む広島原爆」です。若い頃ある被爆者の方と出会い、原爆のことをいつか絵本にと思ったのですが、それがずっと宿題になっていて、やっと絵本の形になりました。「ぼくらの地図旅行」で、那須正幹さんと出会ったことが大きいのですが、取材をさせてもらった被爆者の方をはじめ、いろんな方々の思いで出来上がりました。



『絵で読む広島原爆』
(福音館書店)

絵本をお作りになるときのこだわりは？

絵を見て、そして楽しんで欲しいと思って作っています。だから作っている時はこちらも出来るだけ楽しんで作りたいと思っています。

今後どのような絵本を描いていきますか？

今はナンセンスな楽しい絵本を作りたいですね。その一方で、今までもそうしてきたのですが、自分の内なる声に耳を傾

けていると、また違った世界に行けるのではと思っています。はてさて、どんな絵本を作ることができるのでしょうか。

ご趣味についてお聞かせください。

落語が好きです。落語のCDを聴きながら絵を描くこともよくありますよ。

好きな言葉を教えてください。

「一つずつ」かな。仕事も他のことも一つずつ、一つずつとやっているとならなく、いいようです。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

多くの作る絵本はいろいろ描き込んであるので、絵本のページをあっちに行ったりこっちに行ったりしながら絵本の中にはいりこんで遊んでもらえば、ありがたいですね。

西村繁男先生、ありがとうございました！



『おばけでんしゃ』のキャラクター
新規描き下ろしイラスト



西村繁男先生
サイン入りの絵本を
3名様にプレゼント！

応募方法 氏名、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。

あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館

「西村繁男サイン本プレゼント係」

締め切り 平成23年5月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『おばけでんしゃ』(童心社)



森竹祥子
射水市大島絵本館 指導員

\特集/ だっこの絵本

生きる力のスイッチ

「だっこ」がテーマの絵本の中に「しゅくだい」という一冊があります。

子ども達はやぎの先生から「おうちの人だっこしてもらおう」という宿題を出されました。「やだー」と言っていたもぐらの子は、宿題がしたくて大急ぎで家に帰ります。でも、赤ちゃんの世話で忙しい母親は、なかなか話を聞いてくれません。お母さんは赤ちゃんばかり大事にして、ぼくなんかと落ち込むけれど、やっと宿題がだっこだと伝え、母親も家族も大喜びして、やさしくだっこしてくれました。

初めてこの絵本を読んだ時、胸が熱くなって自然と涙が溢れていました。大人になって忘れていた温かいものを、心と体が一気に思い出したような感覚でした。ふれあうっていいなと、絵本館に来られる親子を見てると感じます。手をつないだり、撫でたり、抱っこしたり、自然と笑顔になる魔法のようにも見えます。

*

なぜふれあうことで笑顔になれるのでしょうか。母親は、子どもにふれていくことで「自分はこの子の母親だ」と脳が認識していき、赤ちゃんが可愛くてしかたなくなるそうです。では、赤ちゃんはある雑誌に「子どもはいつも無意識に不安を感じている」とありました。羊水

に包まれていた母親の胎内を出た今、自分を包むものが無いからだと云います。守ってくれるものがない不安は、ふれあうこと…その第一歩であるだっこが、埋めているのかもしれない。子どもは自分が抱きしめられることで、守られている、大切にされている、愛されている…と感じるのではないだろうか。

*

では、ふれあいがなかったらどうなるか。大昔、ある王様が実験をしたそうです。修道院に捨てられた赤ん坊に対し、マスクをして、話しかけず笑顔も見せずに世話をしました。すると、実験が終わらないうちに、赤ん坊はみんな亡くなってしまったそうです。衣食住がそろっていても、人とのふれあいや、コミュニケーションがなければ命に関わる…。この実験を知るまで、ふれあいがこんなに重要だと気がつきませんでした。ふれあうことで、私たちは生きる力のスイッチを押されていたのだと思います。

*

この絵本を小学生に読んでみました。だっこの宿題が出たらやってこれる？という質問に、何人かが元氣よく手を挙げました。子どもも大人も大好きな人にふれられると嬉しいもの。ふれあって、もう一度生きる力のスイッチを押してみませんか。

私のおすすめ絵本

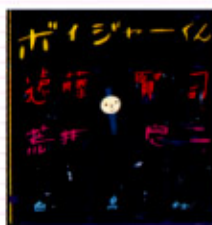
『シンデレラ』



シャルル・ペロー／作
東逸子／絵
天沢退二／訳
三起堂行（ミキハウス）

美しく輝く繊細な絵と、綿密で流れるような文章。シンデレラは舞踏会に2回行ってたなんて！新しい発見が嬉しい、もう一度読んでほしい名作です。

『ボイジャーくん』



遠藤賢司／作
荒井良二／絵
白泉社

宇宙にぼつんと浮いているボイジャーくん。ひとりじゃないよ、と語りかけてきます。大きいサイズなので、宇宙を一人占めているみたい。

『しゅくだい』



宗正美子／原案
いもとようこ／文・絵
岩崎書店

先生が出しただっこの宿題をお母さんとしたくてもぐらの子は走って帰りますが…。いくつになってもだっこは嬉しい！誰かを抱きしめたいくなる絵本です。



『いわいさんちへようこそ!』
岩井俊雄
紀伊国屋書店
手作りしたくなるフォトエッセイ。



『いのちのおはなし』
日野原重明／文 村上康成／絵
講談社
いのちってどこにあるの？
答えがここにあります。



『ねえ、どれがいい?』
ジョン・バーニンガム／作・絵 まつかわまゆみ／訳
評論社
繰り返される奇想天外な質問。
選ぶのが楽しい一冊。



『ももんちゃんぽぽー』
とよたかずひこ／作・絵
童心社
かわいーだけじゃない、
赤ちゃんってすごい!



『りんぐまー』
谷川俊太郎／作 大竹伸朗／絵
クレヨンハウス
ひらがなの不思議な響きを楽しんで。